

令和7年度
「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立高見小学校
令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学力については、「全国学力・学習状況調査」や「学力経年調査」の結果から、年々向上していることがわかる。生活指導面においても、全体的に落ち着きがみられる。しかし、不登校や遅刻については増加傾向にあり、外部機関との連携や家庭への啓発が重要である。

・令和6年度の学校生活アンケートにおいて、「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的な回答が82.9%、「学校へ行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的な回答が89.2%と中期目標を上回っている。しかし、「学校のきまりを守っていますか」の項目については、肯定的な回答が92.5%と中期目標を下回っている。このことから、規範意識の向上を目指し取り組みを進める必要がある。

・令和6年度の「全国学力・学習状況調査」では、国語・算数ともに大阪市平均を上回った。また、「学力経年調査」においても、4年生以外で大阪市平均を上回った。

・令和6年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、体力合計点が男子49.28、女子53.76で男女ともに中期目標を下回っている。

・学習者用端末を活用した取り組みについては、中期目標を達成していない項目がいくつかある。端末の持ち帰りについては、家庭環境等も課題である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末に小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

○令和7年度末に学校生活アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。

○令和7年度末に学校生活アンケートにおける「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を77%以上にする

○令和7年度末に学校生活アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。

○令和7年度末に学校生活アンケートにおける「先生や友だち、近所の人にあいさつをしていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末に全国学力・学習状況調査の正答率について、大阪市平均を上回る。

○令和7年度末に小学校学力経年調査の正答率について、大阪市平均を上回る。

○令和7年度末に全国体力・運動習慣等における体力合計点を男女ともに54.0点以上にする。

○令和7年度末に小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末に授業日において学習者用端末を使用する割合を100%にする。
- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- 令和7年度末に学校生活アンケートにおける「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%、15日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度のポイントを維持または向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の62%以上にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は88.2%となり、目標を達成した。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は82.7%となり、こちらも目標を達成することができた。今年度は規範意識の向上について、生活指導部長を中心に取り組みを進めてきた。その結果、学校生活アンケートで「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答は94%と目標を大きく上回る結果となった。
- 中期目標については、5項目中2項目のみ達成することができた。いじめやあいさつなどの意識向上に課題が残った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較した結果、前年度のポイントを向上したのは1学年のみであった。
(4年0.4ポイント向上、5年1.2ポイント減少、6年0.5ポイント減少)
- 小学校学力年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は70.1%で目標を達成し、前年度よりも向上することができた。
- 中期目標については、全国学力・学習状況調査の正答率が大阪市平均を上回ったのは、国語と理科であった。また、小学校学力経年調査の正答率は、4年生が大阪市平均を上回ることができた。「外国語(英語)の勉強は好きですか」の質問については、肯定的に回答する児童の割合は83.5%と目標を達成することはできなかった。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は61.9%(12月現在)で目標を達成することはできなかった。しかし、11月からは全学年が毎日持ち帰りを実施し、活用に努めた。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合については目標を達成することができた。
- 中期目標については、令和7年度末に授業日において学習者用端末を使用する割合は80.5%で100%にすることはできなかった。
- 学校生活アンケートにおける「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%で目標を達成することができた。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%、15日以上取得する教職員の割合を90%以上にすることは、どちらも達成することができた。「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合も100%にすることができた。学習者用端末の活用については、活用の方法や教員のスキルアップなど検討が必要である。教員の働き方については、副担任制や専科、交換授業など人員の配置や協業体制の確立等により改善が図られている。

(様式2)

大阪市立高見小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。(前年度数値: 87%) 88.1% ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(前年度数値75%) 82.7%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ・児童理解全体会を設定し、情報を収集・共有し、「問題行動・いじめ・不登校」等、諸問題の解決に向けて全教職員が組織的に取り組む。 ・「学校生活の約束」を教室に掲示する。保護者にも配付し、教職員と児童、保護者が共通理解のもと一貫した生活指導を行う。	B
指標 ・学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。(前年度92.5%) ・学期に1回以上、「学校生活の約束」を学校全体で確認する場を設ける。	
取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・人権教育年間計画を作成し、互いの違いを理解し、認め合う児童集団の育成に努める。 ・「運動会」や「学習発表会」等の学校行事を通して、児童が達成感や成就感を味わうことができるように取り組む。 ・たてわり班、登校班、クラブ活動、委員会活動等の活動を通して、異学年交流や児童と教職員との関わり深める。	B
指標 ・学校生活アンケートで「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(前年度目標: 89% 結果89.2%) ・年間計画をもとに、全学級で人権教育の実践を行う。 ・「運動会」や「学習発表会」などの学校行事では、委員会や代表委員会の児童が中心となって運営し、全児童がめあてをもって主体的に取り組むことができるようにする。 ・児童が自ら学校運営に関わることができるよう代表委員会を月に1時間設定する。	

※年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

・学校生活アンケートで「学校のきまりを守っていますか。」の項目について肯定的に回答した児童の割合は、学校全体で93.85%で、目標の93%を上回った。

学校全体 93.85%

1年 94.3% 2年 100% 3年 100%

4年 92.9% 5年 80.9% 6年 95%

・学期に1回以上、「学校の約束」を学校全体で確認できている。学校全体で指導観を共有し指導の統一ができている。

取組内容②

・学校生活アンケートで「学校へ行くのは楽しいと思いますか。」の項目について肯定的に回答した児童の割合は、学校全体で89.8%で、目標の90%を下回った。

学校全体 89.8%

1年 97% 2年 94.4% 3年 93.7%

4年 91.5% 5年 85.7% 6年 76.6%

・行事では、児童の意見を取り入れながら活動を進めることができた。今後も、委員会や代表委員会の児童が中心となって運営し、やりがいのあるものにしていく。

次年度の改善点

取組内容①

・アンケートの項目の「ルールを守る」という基準が児童それぞれで違っているので、学校としての基準を設け伝えるようにする。

・ルールの確認や指導は継続して行っていく。学校全体でも生活目標の達成に向けた取り組みを実施してもよい。

・具体的な模範を示し、行動を振り返ったり褒めたりする好循環を生む指導を行う。

取組内容②

・行事を通して児童が達成感や成就感を感じられるようになっている。

・異学年交流を深めたり、児童会を中心とした活動を増やしたりすることで、楽しい学校を感じられるようにする。

・不登校や行き渋りを減らし、学校が楽しいところであることを体験や経験を通して味わわせる。

(様式2)

大阪市立高見小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント以上向上させる。4年0.4ポイント向上、5年1.2ポイント減少、6年0.5ポイント減少</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にする。(前年度目標:74% 結果65.3%) 70.1%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況						
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・主体的・対話的で深い学びを実現する授業力を身につけることをめざして全体での研究授業・研究協議会に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年間6回以上の全体での研究授業・研究協議会を行う。</p> <p>・学校生活アンケート「算数の授業はよくわかりますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(前年度目標:設定なし)</p>	B						
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・児童の体力保持増進のため、体育授業、体育的行事の充実を図る。</p> <p>・各学年の内容に応じた「体育がんばりカード」を作成し、活用を図る。また、がんばりを評価し、フィードバックするように工夫していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学期に1回以上、「運動会」「なわとび週間」「かけ足週間」など、全校での体育的活動を実施する。</p> <p>・学校生活アンケート「体を動かすことは楽しいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を94%以上にする。</p> <p>(前年度目標:94% 結果:93.9%)</p>	B						
※年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析							
<p>【取り組み内容①】</p> <p>・学校生活アンケートで「算数の授業はよくわかりますか。」の項目について肯定的に回答した児童の割合は、学校全体で91.7%で、目標の90%を上回った。</p> <p><u>学校全体 91.7%</u></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>1年 98.5%</td> <td>2年 94.4%</td> <td>3年 98.5%</td> </tr> <tr> <td>4年 88.7%</td> <td>5年 85.7%</td> <td>6年 85.0%</td> </tr> </table>		1年 98.5%	2年 94.4%	3年 98.5%	4年 88.7%	5年 85.7%	6年 85.0%
1年 98.5%	2年 94.4%	3年 98.5%					
4年 88.7%	5年 85.7%	6年 85.0%					

- ・研究主題に沿った授業を計画的に進めることができた。児童の課題に合わせて重点的に指導をしているが、授業が分かりにくいと感じている児童もいる。
- ・児童の実態として、計算力に課題が見られる。その背景要因として、家庭学習の定着が十分でない可能性がある。家庭での計算練習の機会が限られていることや、宿題に継続して取り組めていない状況が確認されており、家庭学習の在り方についても連携を図り、支援していく必要がある。

【取り組み内容②】

- ・学校生活アンケートで「体を動かすことは楽しいですか。」の項目について肯定的に回答した児童の割合は、学校全体で93.4%で、目標の94%を下回った。

学校全体 93.4%

1年 95.5% 2年 98.6% 3年 98.5%

4年 97.2% 5年 80.9% 6年 88.3%

- ・「なわとび週間」「かけ足週間」では、「がんばりカード」を活用し、めあてを持たせて取り組んだことで、休み時間にも外に出て目標を達成しようと意欲的に取り組んでいた。
- ・学級での外遊びを充実させたことで元気に遊ぶ児童が増えた。しかし、高学年では、季節的な理由や教室が4階という理由から外で遊ぶことに消極的な児童も見られた。

※次年度の改善点

【取り組み内容①】

- ・算数科における授業研究をすすめ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業力を身につけることをめざす。
- ・算数科の学習に課題のある児童には、個別でより細やかな指導を行い、基礎的な力を確実につけられるようにする。また、習熟度別での指導を検討していく。
- ・児童の計算力向上につながるような取り組みを検討する。

【取り組み内容②】

- ・学級での外遊びを充実させ、「みんなで遊ぶことが楽しい」と実感できるようにする。
- ・体育の学習や「なわとび週間」「かけ足週間」などの体育的行事にめあてをもって取り組み、達成感や成就感を味わえるようにする。

(様式2)

大阪市立高見小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の62%以上にする。(前年度目標:50% 結果61.5%) 61.9% ○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。 (前年度目標:100% 結果100%) 100%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 】 ・朝学習などで学習者用端末を毎日活用する。 ・計画的に学習者用端末を持ち帰り、家庭学習に取り組む。 ----- 指標 ・学校アンケートにおける「学習者用端末を活用した学習にすすんで取り組むことができましたか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。 (前年度目標:90% 結果94.9%) ・全学年、1日1回学習者用端末を活用する。 ・朝の「学習タイム」の活用や「心の天気」の入力を積極的に行う。 ・3・4年生は2週間に1回、5・6年生は1週間に1回以上学習者用端末を持ち帰り、家庭学習に取り組む。	B
取組内容②【 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 】 ・教員のICT活用指導力の向上を図るための研修を実施する。 ・ICTを効果的に活用した授業を計画・実施する。 ----- 指標 ・年間で5回以上、校内でのICT研修を実施する。 ・教員は年間1回以上、ICTを効果的に活用した授業の計画・実施を行う。	B
取組内容③【 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 】 ・昨年度に引き続き、学校閉庁日を設定し、教職員の年次有給休暇取得を推進する。 ----- 指標 ・専科教員による授業、学年内での交換授業を行う。 ・校務分掌部会を開き、行事などで協業体制を進める。	B
※年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・学校生活アンケートで「学習者用端末を活用した学習にすすんで取り組むことができましたか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は、学校全体92.7%で、目標の95%を下回った。	

学校全体 92.7%

1年 89.7%	2年 97.7%	3年 96.9%
4年 97.6%	5年 88.9%	6年 83.3%

- ・11月から毎日持ち帰りを基本に進めているが、実際持ち帰りしていない児童や忘れる児童が見られる。スタサプ、デジタルドリルを積極的に活用している。
- ・日常的に活用してきたことで慣れ親しむことができている。タイピングにも熱心に取り組むことができた。学校でも家庭でも進んで取り組む児童が増えている。冬休みパックをきっかけにデジタルドリルの有効的な活用も増えてきた。
- ・低学年は、様々な機能を使いこなすのは、まだ難しいが、できるところから取り組んでいる。
- ・個人で取り組む時間が多く、友達同士での交流はまだ少ない。
- ・心の天気については、遅刻の児童や用意が遅い児童がするのが難しい。
- ・目標数値を達成できていないが、学習者用端末活用状況では昨年度と比べて活用できている日数が増えている。

取組内容②

- ・研修実施 6回（2月4日時点） 残り2回実施予定
- ・ICT研修は計画通り行われている。
- ・校内外の研修に参加して、教えてもらったことを活用している。
- ・ICTを活用した授業を行い、効果的な使い方ができるよう努めている。
- ・スライドを使った授業を行うことができた。
- ・理科では児童が自ら CANVA などのソフトを使って、フローチャートを作成して、実験を行っている。自分で考える機会が増え、知識の定着にも役立っている。

取組内容③

- ・高学年を中心に、専科教員による指導、学年内での交換授業を行っている。年度途中に設定した学年もあり、予定以上に取り組んでいる。
- ・専科によって、仕事が分担され協業体制ができていた。
- ・行事などの学年での全体指導を交代ですることができた。
- ・必要に応じて校務分掌部会を開き、行事等の体制を進めることができています。

※次年度への改善点

取組内容①

- ・ ころの天気は、毎日入力するように声掛けをしている。欠席児童、不登校の児童、遅刻児童は入力できていないことがあるため、改善できるように努める。
- ・ スタサプやナビマは、宿題に出したり、学習タイムに取り組んだりしている。
- ・ 家庭に持ち帰ることでPCに触れる機会が多くなった。調べ学習にICTを活用することで、学習内容を深めることができた。

取組内容②

- ・ 個々の能力を高めるために、今後も研修を実施していく。
- ・ 計画通り進めることができた。
- ・ 授業で活用してよかったアプリや方法など、どの学年でも活用できるように、ICT研修などで共有した。

取組内容③

- ・ 交換授業のメリット、デメリットを共有し、進めていく。
- ・ 学年団で協力して効率よい進め方を話し合っていく。
- ・ 企画会で主任が案を練り上げるのではなく、確実に部会などで案をはかり練り上げていくことを再度確認する。